

バラ新品種 ‘スターマイン’ の育成経過とその特性

富田裕明・水野信義・川嶋千恵*

Hiroaki TOMITA・Nobuyoshi MIZUNO and Chie KAWASHIMA

Breeding processes and characteristics of ‘Star Mine’, a new greenhouse rose.

I 緒 言

バラ品種の主流は依然として大輪系統の一茎一花咲きであるが、多様化が進む品種の中でスプレーバラの人氣があがっている。小型のフラワーアレンジメントに使いやすいこと、輪数が多いため割安感があることなどが流行の理由としてあげられよう。また、スプレーバラの大部分の品種は最近増加しているロックウール栽培でのアーチング法^(1,2)を用いた栽培によって高品質の切花を収穫できるため、この方法による作付けの増加が著しい。県内でもスプレーバラの生産はアーチング法が主流となっている。

近年になってスプレーバラの新品種が毎年発表されるようになってきたが、まだ大輪系統などに比べ、バラエティーに幅がなく、品種の充実が望まれている。

当场ではスプレーバラの生産消費の両面での増加に呼応し、1993年(平成5年)3月に‘ラブミーテンダー’及び‘ブライダルファンタジー’の2品種のスプレーバラの育成を完了、種苗登録の出願を行った。⁽³⁾

これら2品種は1988年(昭和63年)に行った交配から得られたものだが、その翌年(1989年)に交配実生したものから、新たに花色、花型が優れたスプレータイプの1個体が得られた。この個体を4年間にわたって検討した結果、新品種としての有望性が確認されたため1994年(平成6年)5月に‘スターマイン’の名称で種苗登録の出願を行った。本報では、その育成経過と特性について報告する。

なお、この品種の育成は花き科職員一同の協力のもとに遂行されたものである。

II 育成経過

神奈川県試の無加温ビニールハウスにおいて、1989年5月2日～6月13日の間に‘サマンサ’×‘カランボウ’の他、60通りの組み合わせで648花について交配を行った。同年9月14日および9月28日に結実果計278果を採取した。果実中より得られた種子を水洗し、3187粒の種子を播種した。播種は11月14日と21日の2日に分けて行い、ガーデンパンL型(34cm×50.5cm×7.5cm)を用い、一箱130粒ずつとした。灌水後、11月24日より5℃の冷蔵庫内にて55日間低温処理を行い、翌年1月17日に出庫、その後はガラス温室内(最低夜温16℃)で育成した。発芽調査を3月6日に行った結果、発芽生育数は1777本で発芽率は55.8%であった。その後、第1回目の開花時に花色、花型、花弁数、香り等に注目して第1次選抜を行い、114個体の実生を選抜した。自根での生育後に第2次選抜を行い、さらにノイバラ台に接いで第3次選抜を経て、8系統の実生を選抜した。1992年4月に各系統それぞれ10株ずつノイバラ台の緑枝切り接ぎ苗を作り、収量、品質調査、および種々の性質や形質を検定した。この第4次選抜で89-7とラベリングされた1個体を選抜した。更にこの個体を、代表的なスプレー品種である‘ミミローズ’を対照品種として比較検討した結果、収量や品質、栽培の容易さ、市場性、新規性等で有望と判断した。この個体は優れた明るい花色と花数が多いところから、花火にちなみ‘スターマイン’と命名された。

‘スターマイン’は当场育成の中間母本85-1を母親とし、同じく当场育成の中間母本86-44を父親としての交配から得られた。85-1は1985年に行った‘ソニア’×‘ソリナ’の交配より得られたもので、花型良く柔らかなサーモンピンクの中輪花だが収量が少ない系統であ

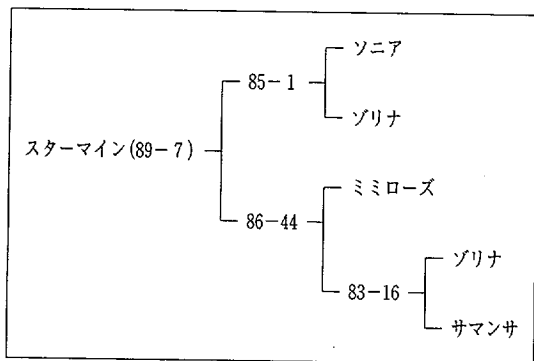
* 元園芸試験場

る。86-44は1986年に行った‘ミミローズ’×83-16(‘ゾリナ’×‘サマンサ’)の交配より得られたもので、明紫赤のスプレタイプである。優れた花色のスプレタイプで優良な個体であるが花茎が柔らかすぎる欠点を有している。

‘スターメイン’は85-1からは優れた花型と花色を、86-44からは優れたスプレタイプとしての性質をそれぞれ受け継いでいる。なお85-1×86-44の交配からは182粒の種子が得られ、発芽数は134本、第1次選抜で選ばれた個体数は6個体であった。

選抜、及び対照品種との比較はすべて土耕栽培で行ったため、スプレタイプの栽培の主流となっているロックウール耕への適応性を確認するため、1993年4月から翌年5月まで、挿木苗を用いてロックウール栽培を行い検討を行った。

その結果、慣行的な仕立、採花方法である切り上がり採花による栽培とアーチング栽培のいずれでも、問題なく栽培できることが分かった。



第1図 ‘スターメイン’(89-7)の系統図

Ⅲ 品種特性

1. 花の特性

花色は花卉表側は淡ピンク(日本園芸植物標準色票(JHS 0402)),裏側は淡黄ピンク(JHS 1301)で、全体的には淡いサーモンピンク色の色調である。花の大きさは平均6.5cmで‘ミミローズ’の平均8.0cmに比べ小さい。一切花当たりの着蕾数は8~9花で、花卉は半剣弁である。花の高さはややばらつき、高低がある。花卉数

は冬期には30枚程度で‘ミミローズ’に比べやや多い。香りは微香から中香で、ほのかな甘い香りがある。明るく柔らかな色合いのため花束はもちろん、テーブルアレンジメントやブーケなど幅広い利用が考えられる。

2. その他の形質

株立ちは直立性で、樹勢は強い。本葉の長さは約17cm、小葉の枚数は7~9枚。成熟葉の色は濃緑色で半光沢がある。とげは花枝の中央部で5本程度である。スプレ部分の腋芽の発生がやや多い。耐病性等は普通であるため一般的な病虫害防除を行う必要がある。

3. 収量、品質

定植1年次の1993年10月25日から1994年5月30日までの1株当たりの切花本数は13.7本だった。‘ミミローズ’は13.1本だった。軟弱なものや曲がりなど品質的に劣る格外切花率は14.3%で‘ミミローズ’の18.7%にやや優った。採花された切花の長さは50~59cmのものが32.2%と最も多く、次いで40~49cmが29.7%、60~69cmが19.4%だった。平均切花茎長は50.1cmで、‘ミミローズ’は51.5cmだった。平均切花重は37.3g、平均着蕾数は6.5輪で、‘ミミローズ’はそれぞれ36.8g、6.8輪であった。

ロックウール耕においても順調に生育し、切り上がりの普通栽培とアーチング法による栽培の双方に適している。またアーチング法では夏期も品質が高く、周年切りが可能である。

摘 要

温室用スプレタイプのバラの新品種を育成した。‘スターメイン’と命名し1994年6月に種苗登録の申請を行った。‘スターメイン’は当場育成の中間母本‘85-1’を母親とし、同じく当場育成の中間母本‘86-44’を父親として交配、その実生の中から選抜されたものである。

‘スターメイン’の特徴は以下のとおり。

1. 花卉の色は表が淡ピンク(JHS 0402)、裏側は淡黄ピンク(JHS 1301)、花卉数30枚、弱香がある。
2. 花径は6.5cmで半剣弁。
3. 1花枝当たりの花数は8花前後。花の高さがややばらつく。
4. 樹勢が強く栽培は容易である。ロックウール栽培にも適し、アーチング法による栽培にも適する。

第1表 ‘スターメイン’ (89-7) の概要

♀	交配組合せ		花卉数 (接ぎ木後)	花 色 (JHSカラーチャート)
	♂			
85-1	86-4	4	30	花卉表・淡ピンク (0402)、花卉裏・淡黄ピンク (1301)
85-1……ソニア×ゾリナ 86-44……ミミローズ× (ゾリナ×サマンサ)				

第2表 ‘スターメイン’ (89-7) の時期別切花本数 (1993.10.25~1994.5.30)

品 種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計	株当たり	格外率
89-7	1本	49本	16本	44本	16本	38本	40本	69本	273本	13.7本	14.3%
ミミローズ	1	45	11	43	13	42	20	87	262	13.1	18.7

格外率……曲がりや軟弱なものなど品質的に劣るもの

第3表 ‘スターメイン’ (89-7) の切花形質の分布 (1993.10.25~1994.5.30)

品 種	総切花本数	切 花 茎 長 分 布				
		39cm以下	40-49	50-59	60-69	70cm以上
89-7	273	16.5%	29.7%	32.2%	19.4%	2.2%
ミミローズ(対照)	262	13.4	31.7	32.4	18.3	4.2

第4表 ‘スターメイン’ (89-7) の時期別切花長 (1993.10.25~1994.5.30)

品 種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平均
89-7	46.0cm	49.1cm	54.0cm	49.4cm	49.3cm	53.7cm	43.7cm	52.3cm	50.1cm
ミミローズ	53.0	52.9	52.3	53.9	47.8	47.7	44.2	53.6	51.5

第5表 ‘スターメイン’ (89-7) の時期別切花重及び着蕾数 (1993.10.25~1994.5.30)

品 種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平均
89-7	32.0 g	34.4 g	40.6 g	36.8 g	33.4 g	48.7 g	38.3 g	40.0 g	37.3 g
(輪数)	6.0	5.9	7.6	6.2	4.8	7.8	5.7	6.9	6.5
ミミローズ	31.0 g	36.5 g	29.8 g	39.9 g	31.6 g	38.3 g	40.1 g	35.8 g	36.8 g
(輪数)	3.0	7.9	5.0	7.1	4.3	6.6	7.9	6.6	6.8

(輪数)……切花当たりの着蕾数

第6表 ‘スターメイン’ (89-7) のロックウール耕における時期別切花本数 (1993.10.1~1994.5.30)

品 種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計	株当たり	格別率 ¹⁾
普通 ²⁾	24.5本	14.0本	12.5本	19.5本	7.0本	19.0本	19.0本	24.5本	140.0本	17.5本	15.0%
シュート ³⁾	13.0	12.5	6.5	15.5	7.5	8.5	12.0	22.5	98.0	12.3	4.1

1) 曲がりや軟弱なものなど品質的に劣るものの割合

2) 普通仕立区

3) アーチング法区

第7表 ‘スターメイン’ (89-7) のロックウール耕における時期別切花長 (1993.10.1~1994.5.30)

品 種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平均
普通	47.7cm	45.3cm	44.8cm	44.9cm	49.6cm	49.5cm	52.4cm	57.3cm	49.5cm
シュート	71.4	64.4	76.3	64.9	69.9	81.1	73.8	79.2	72.6

第8表 ‘スターメイン’ (89-7) のロックウール耕における時期別切花重 (1993.10.1~1994.5.30)

品 種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平均
普通	30.1 g	28.8 g	23.5 g	31.0 g	30.6 g	40.3 g	39.3 g	38.2 g	33.6 g
シュート	52.5 g	36.0 g	41.2 g	37.1 g	40.1 g	65.3 g	55.3 g	53.4 g	47.9 g

第9表 ‘スターマイン’ (89-7) のロックウール耕における時期別着蕾数 (1993.10.1~1994.5.30)

品 種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平均
普 通	6.0	4.9	3.8	5.0	3.9	5.4	5.7	5.2	5.2
シュート	9.4	5.0	5.9	5.6	4.9	10.5	8.5	8.6	7.5

引 用 文 献

1. 横田禎二. 1993. バラ切り花のロックウール栽培における経営上の問題点. 平成5年度園芸学会秋期大会シンポジウム講演要旨. 158-166
2. 嶋本久二. 1993. バラのロックウール栽培における樹形管理. 新花卉. 158:15-20
3. 水野信義・林勇・川嶋千恵. 1993. バラ新品種‘ラプミーテンダー’と‘ブライダルファンタジー’の育成経過とその特性. 神奈川県園芸試験場研究報告. 43:91-95

Summary

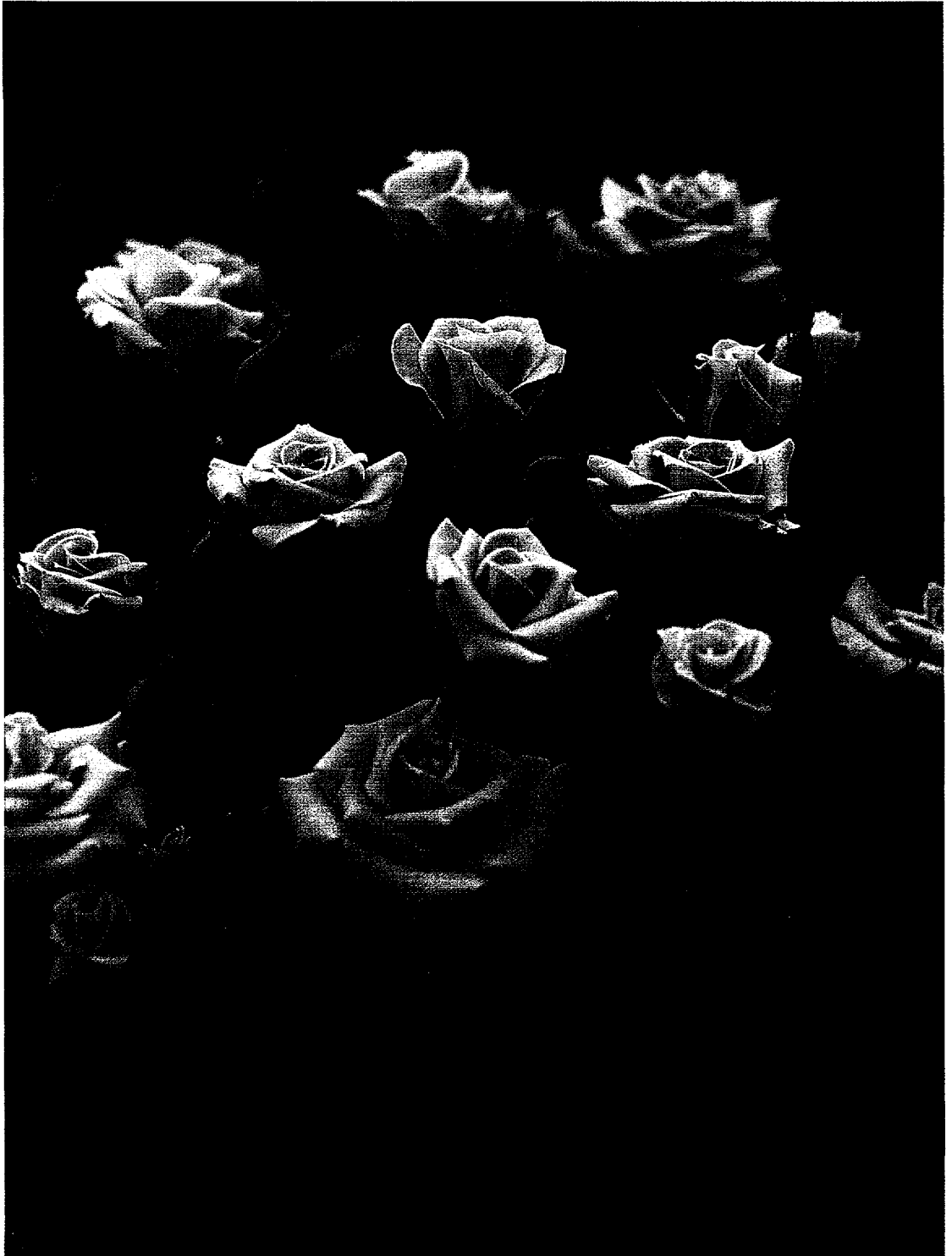
A new cultivar ‘Star Mine’ originated from the cross hybridization of ‘85-1’ with ‘86-44’ in spring of 1989. ‘85-1’ was the result of a cross hybridization of ‘Sonia’ and ‘Zorina’ in 1985. ‘86-44’ was created by the cross hybridization of ‘Mimi-rose’ with ‘83-16’. The parentage of ‘83-16’ is ‘Zorina’ and ‘Samantha’. ‘85-1’ has a flower which has a good shape and a soft salmon pink color, but with a low yield. ‘86-44’ has a good spray formation and a bright pink color, but it has a defect in the weak neck of the flower.

‘Star Mine’ was selected from 1777-seedlings after the fourth selection. Cultivation with a check variety of ‘Mimi-rose’ has met with good results.

An official registration of this greenhouse rose of spray type named ‘Star Mine’ was applied for under The Japanese Seed and Seedlings Law on June 1994.

The main characteristics of ‘Star Mine’ are summarized as follows.

- 1) The flowers are about 6.5cm across with a salmon pink color. According to the JHS Color Chart, the petals are color No.0402 inside and No.1301 on the reverse side. Each flower stalk produces a cluster of 8-9 flowers. They have a slight sweet scent.
- 2) The plant is vigorous and makes an upright bush.
- 3) There are 4-5 prickles per 10cm along the center of flower stalk, with 7-9 leaflets.



スターマイン